

Topics

フォード日本撤退！ ～年内で日本での事業から撤退と発表～



1月25日、アメリカフォード・モーターが都内に全国のディーラーを集め、2016年内に日本での事業から撤退すると発表しました。広報担当者は「日本市場は縮小しており、その中でフォードのシェアは僅かにとどまり、今後も成長が望めない」と撤退理由について表明しています。またフォードの内部文書によると、インドネシアにおける全事業も撤退する方針です。

フォードの昨年の国内販売台数は4968台。輸入車新車市場におけるシェアは1.5%と苦戦していました。

同社の日本法人は1974年フォード自動車として設立、現在フォードジャパンリミテッドとなっていますが、全従業員の雇用は解除となるようです。現在の国内販売拠点は52店舗あり、うち10店舗は日本法人の子会社が運営。今後は地場資本ディーラーとの販売終了条件の調整を進めるとしています。



日本法人で最も販売台数の多いエクスポローラー

Topics

スバル アイサイト搭載で人身事故6割減と発表 ～調査結果を初公表～



Confidence in Motion

1月26日、富士重工業は2010年度から2014年度に日本国内で販売したスバル車の人身事故件数について調査した結果、運転支援システム「アイサイトVer・2」搭載車は非搭載車と比較して、**1万台あたりの件数で、車両同士の追突事故で約8割、対歩行者事故で約5割、調査対象全体では約6割減少**したことが分かったと初めて発表しました。

損保各社「先進安全自動車」保険料金引き下げへ ～自動ブレーキ普及で事故減少～

上記のような性能の向上を受けて、損害保険会社各社は自動ブレーキなどの先進的な安全装置を搭載する「**先進安全自動車**」について**2017年から任意保険料金を平均で約1割程度割り引く方針**を固めた、と報じられました。

ただ、現在の自動ブレーキはメーカーや採用車種により性能差が多いのも事実。特に歩行者を認識できるかどうかは大きな鍵となります。国土交通省では自動ブレーキ搭載車を調査し、格付けをすると発表（現在の自動車アセスメント制度の予防安全性能評価に2016年度から「自動ブレーキの対人身事故防止効果」の審査項目を追加。追突防止機能については現在すでに審査実施済み）しており、今後の保険料金算出にも大きな影響を与えそうです。

New Item

SCAN GRIP カラーマッチシリーズ -調色に使えるハンディタイプLED-

□スキャングリップのカラーマッチシリーズは色調の確認にも使える、高い演色評価指数（Ra95）が特長のコードレスCOB・LED作業灯です。使用用途にあわせて3種類の大きさをラインアップしています。

①SGP-MM マルチマッチ

色調確認はもちろん、広い照射角をいかして塗装作業・磨き作業・洗浄作業など様々な作業灯として使用できます。このモデルはコードレスでも、電源ケーブル接続状態でも使用できます。防水防塵・耐衝撃モデルです。

②SGP-SM サンマッチ

コンパクトな手のひらサイズですが、しっかり照らせる実力派ライトです。2段階の照度調整が可能で、フル充電で最大3時間の使用が可能です（step2：180 Lm時）ハンディタイプなので現場調色時に大変便利です。耐溶剤性のレンズ部は簡単に脱着でき洗浄も可能です。

③SGP-MP マッチペン

ポケットに収まるコンパクトライト。光の集束ができるフォーカス機能付でちょっとしたキズの確認などに！単4電池使用。

